



第一工業製薬株式会社

株主通信

2017年3月期(通期)

2016年4月1日から2017年3月31日まで

証券コード:4461



代表取締役 会長 兼 社長

坂本隆司

私たちは、「ユニ・トップ」で輝く企業を目指して価値の創造に努めます。

おかげさまで、過去最高利益を3年連続して更新しました。

現在の5カ年計画「REACT1000」は2年が経過し、今年の4月から中間点に入りました。最高益は、新しい事業となった基板材料と電子材料が順調に伸びたことと原料の低位安定に支えられたコスト削減努力が要因です。しかしながら、売上高は2年連続して減少しました。期待した太陽電池分野が不振であることと、海外展開の遅れが理由です。

経営を評価する指標として、3つのものさしを重視しています。安全性(自己資本の充実)、収益性(売上高営業利益率)、そして、成長性(毎年の売上高伸長)です。安全性と収益性は、この10年間の全社的な取り組みによって改善していると判断します。連続して減少した売上高を分析して、成長性に課題があると反省する2017年3月期でした。

「SUS5」を合言葉に、行動の革新を図ります。

2020年の3月末に向かう目標のうち、売上高を当初の750億円から670億円に修正しました。営業利益の60億円他の目標は変えません。計画の推進にあたり、会社を取り巻く株主さまをはじめとする4つのステークホルダーにお示しした行動指針の20項目も不変です。売上高目標の見直しをローリングと呼んで、行動の革新を社内で論じました。

670億円の売上高を確かにし事業ポートフォリオを良化します。不採算部門から撤退します。「SUS5」の最初のSは、スマイルカーブの技術開発で収益を上げる。Uはユニークさで評価される企業として、お客様との連携を深めるユナイト(手を取り合う)です。次のSは編み上げ靴の紐のストラップで、ボトム、ミドル、トップの役割を引き締めます。

笑う門には福来る、ありがたい弁財天さまの教えです。

スマイルに触れながら社員に語りかけたことをご紹介します。七福神でただ一人の女性が弁財天、弁天さまです。神さまの役割を決める会合がありました。女性ですから化粧や衣装準備で忙しく時刻に間に合いませんでした。遅れた結果、他の神の残した全てが弁天さまの担当です。音楽、弁舌、幸福、長寿、厄除、勝利をつかさどる神さまになられました。

弁天さまが長生きして美貌を保つためにされていた習慣が3つあります。お姿の通り琵琶を弾き、いつも指を動かしておられました。そして、にこにこと笑われることです。さらに、正座の姿勢から「よいしょ」と30分に一度立ち上げられます。この動作で筋肉を鍛える耳石という部分が働き健康になります。女神の教えが行動を促す福の源と訴えました。



化学の夢を追い続けます。

「新時代のダーウィンになれ」。宮沢賢治の言葉を胸に不老長寿に取り組みられるお方と話がはずみました。金を作ろうとした人類の夢は中国に渡って、命の不思議への挑戦となります。錬金術から始まる化学の原点でございます。「SUS5」の5は、売上高に占める研究開発費の指標です。5%以上として、材料また技術の開発に力を入れます。

2050年の進路を見ずえるテーマが話題になります。資源の枯渇や少子高齢化などが、差し迫る問題として取り上げられます。20世紀の百年間に、世界の一人当たりの国内総生産額は15倍に拡大しました。新ビジョン2050と題した本は、20世紀末を天井に経済が循環社会へ入ると結んでいます。このサステイナブルを可能にするのは、化学です。

2018年3月期業績予想

売上高	営業利益
57,800 百万円	4,000 百万円
経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
3,800 百万円	2,500 百万円

「こたえる化学」で進化し、ご期待に沿える経営を行います。

新年度が始まった4月に体制を整えました。ガバナンス（企業統治）を充実させるために執行役員制度を廃して取締役、監査役の役割深化を宣言しました。執行の責任者ともなる取締役は、成長性を意識した仕事に取り組みます。中長期の戦略を考える企画部門を、事業本部長の直属としました。そして、海外部門を一新して国際事業部に呼称変更しました。

四日市の霞新工場では、リニア中央新幹線のトンネル関連素材、電子素材が順調に稼動し、予定したブランドデザインの仕上げへと進んでいます。自己株式の取得を実施し、資本の効率化も行いました。少量多品種で培った技術群を新しく結合させるのもユナイトです。ユニ・トップを掲げて、「こたえる化学」を進化させます。益々のご支援をお願い申し上げます。



飛躍への行動を

「REACT1000」の新たな飛躍に向けて

2015年3月25日に発表しました5カ年経営計画「REACT1000」が2018年3月期で丸3年を迎えるにあたり、計画の見直しを行いました。数値は見直しをしましたが、「REACT1000」で目指す方向や経営方針に変更はありません。新しい計画に向かって、さらなる飛躍を目指す第一工業製薬に変わらぬご支援を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年3月期目標

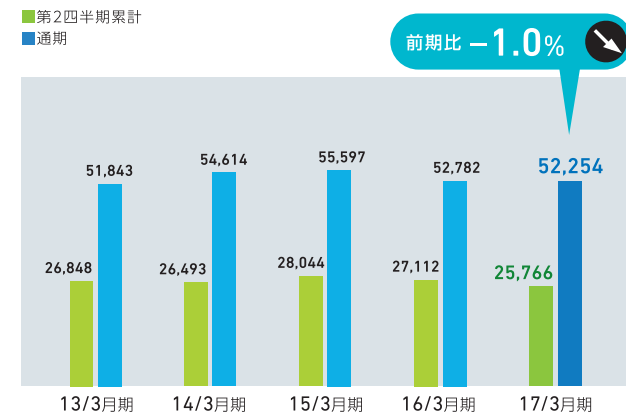
売上高	営業利益	営業利益率	ROE	海外売上高比率
670 億円	60 億円	9%	10%	20%

経営方針

1 新しい企業価値の創造	2 誰にもわかる企業像づくり	3 さらなるガバナンスの深化
4 適切なROE水準の維持と向上	5 協調による優位性の構築	6 マザー工場の加速と充実

財務データ(連結)

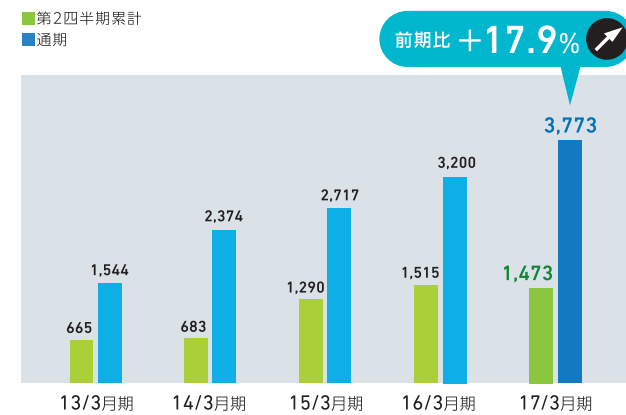
売上高 (百万円)



Point

国内経済は緩やかな回復基調が続く一方、海外経済情勢は先行き不透明な状況が続きました。『機能材料』は顕著に伸長しましたが、『電子デバイス材料』が落ち込み、前期比1.0%減となりました。

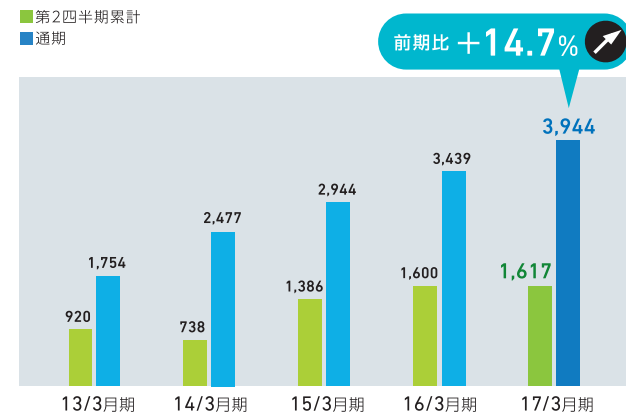
経常利益 (百万円)



Point

持分法による投資利益の増加や支払利息の減少により営業外収支が改善し、前期比17.9%増となり、3年連続で過去最高益となりました。

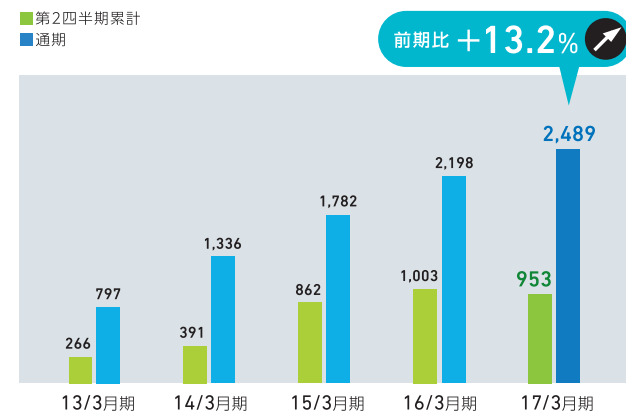
営業利益 (百万円)



Point

固定費等の負担増加がありました。高付加価値製品の売上高が顕著に伸長し、原材料価格が低水準で推移したことから前期比14.7%増となり、3年連続で過去最高益となりました。

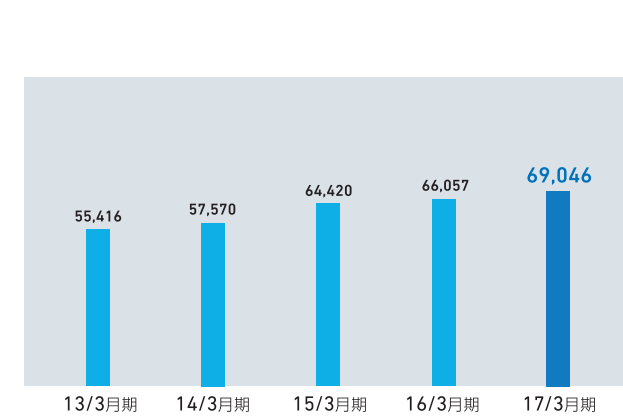
親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益 (百万円)



Point

固定資産の減損損失や税金費用を差し引いた結果、前期比13.2%増となり、3年連続で過去最高益となりました。

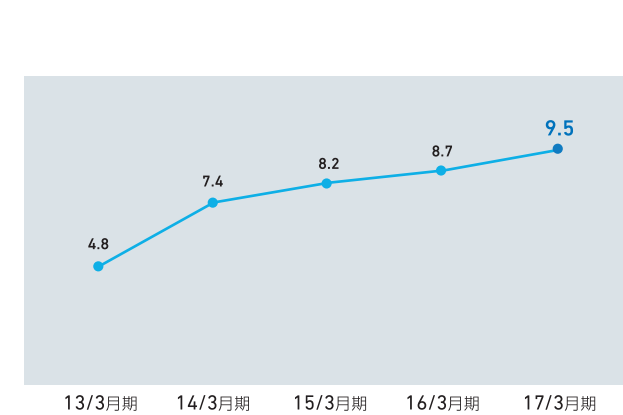
総資産 (百万円)



Point

たな卸資産合計が減少しましたが、受取手形及び売掛金や、製造設備の建設等により有形固定資産の合計が増加したことにより、前連結会計年度末と比べ29億88百万円増加しました。

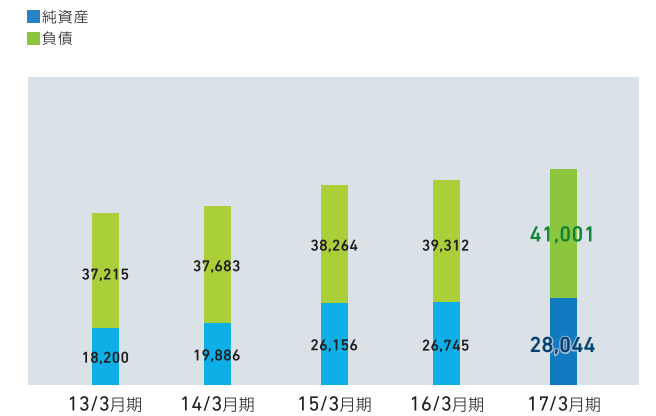
ROE(自己資本当期純利益率) (%)



Point

親会社株主に帰属する当期純利益の増加により、前連結会計年度末と比べROE(自己資本当期純利益率)は0.8ポイント上昇しました。

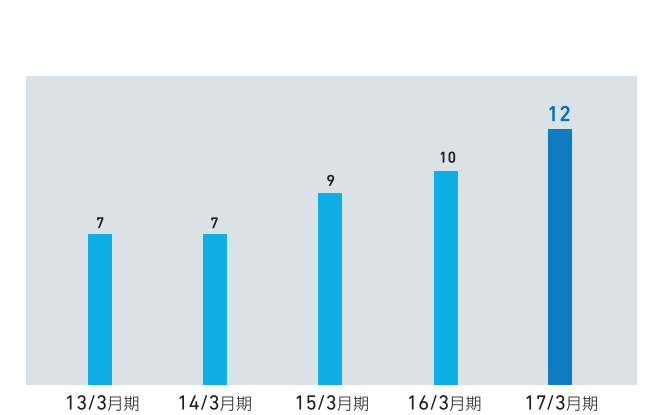
負債及び純資産 (百万円)



Point

長期借入金の増加により負債は前連結会計年度末と比べ16億89百万円増加しました。利益剰余金の増加等で純資産は前連結会計年度末と比べ12億98百万円増加しました。

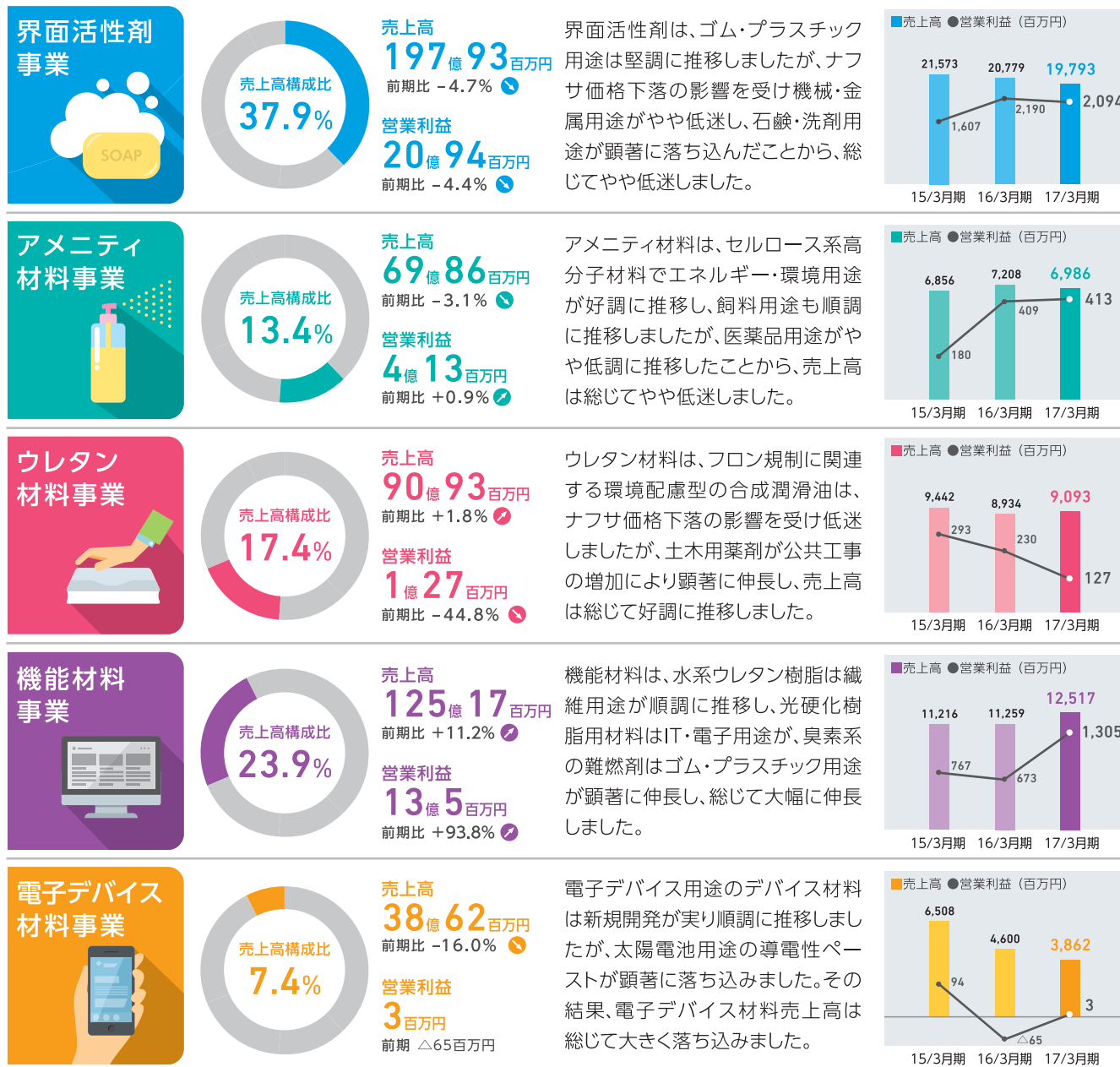
1株当たりの配当金 (円)



Point

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益いずれも3期連続で過去最高益を達成したことから、普通配当として従来見通しの10円から2円増加し1株当たり12円としました。

事業セグメントの概況



セルローズスナノファイバー(CNF)は、近年世界で注目を集めている新素材です。CNFは木を構成している繊維の主な成分であるセルローズを10億分の1メートルのナノ単位まで細かく解きほぐして作ります。

当社では10ナノメートル未満と、一般的なCNFの繊維幅より細い**レオクリスタ**を開発しました。ゲル状でもスプレーできる特性を活かし、ゲルインクボールペンのインクに採用され、世界で初めて製品化に成功しました。

レオクリスタをインクに配合することで、速書きしてもかすれにくく、なめらかな書き心地を実現できます。

2016年5月に開催された「伊勢志摩サミット」の応援アイテムとして採用されました。

CNFの研究開発は日本が先行しており、低炭素社会や循環型社会の実現に向けて、経済産業省や環境省、農林水産省などが企業と連携し用途開発を進めています。国内市場は2030年までに1兆円規模まで伸長する見込みです。

当社でも**レオクリスタ**の特性を活かし、化粧品、塗料、トイレタリー、自動車用バッテリーなどへの応用開発を目指してCNF事業を拡大していきます。

CNF製造の流れ



CNFの特性 ①

鋼鉄より軽くて強い

樹木の幹は鉄筋コンクリートと同じような構造をしていて、鉄筋の役割をしているのがセルローズです。CNFは強度が鋼鉄の5倍と強く、重さは5分の1と軽量が特長です。

CNFの特性 ②

環境にやさしいエコ素材

セルローズは循環再生が可能で、温室効果ガスが増加しない循環配慮型の素材です。

各種産業への応用開発 (イメージ)



化粧品



トイレタリー



色材



色材ペン

決議結果/自己株式取得結果

第153期定時株主総会決議のご通知



2017年6月27日開催の第153期定時株主総会は、お蔭様をもちまして終了いたしました。

その決議の結果につきましては、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.dks-web.co.jp>) に掲載いたしておりますので、そちらをご高覧ください。

こちらをご覧ください

<http://www.dks-web.co.jp>

自己株式取得の結果

当社は、2017年1月31日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式の取得について決議し、以下のとおり取得いたしました。

1 取得対象株式の種類	当社普通株式
2 取得した株式の総数	2,269,000株
3 株式の取得価額の総額	999,856,000円
4 取得期間	平成29年2月1日～平成29年3月3日
5 取得理由	資本効率の向上を図るとともに、経営環境に応じた機動的な資本政策を可能とするためであります。

会社概要・株式の状況 (2017年3月31日現在)

会社概要

社名	第一工業製薬株式会社
創業	明治42年4月
創立	大正7年8月
資本金	88億9,520万円
従業員数	486名(連結967名)

取締役、監査役、執行役員 (2017年6月27日現在)

役職	氏名	役職	氏名
代表取締役 会長兼社長	坂本 隆司	代表取締役 専務取締役	赤瀬 宣伸
常務取締役	浦山 勇	常務取締役	大西 英明
取締役	藤岡 敏式	取締役	北田 明
取締役	祝迫 浩一	取締役	岡本 修身
取締役	山路 直貴	取締役(社外取締役)	青木 素直
取締役(社外取締役)	多々良 裕志	取締役(社外取締役)	高島 雅博
取締役(社外取締役)	谷口 勉	常勤監査役	西崎 信一
常勤監査役	関口 恒	監査役(社外監査役)	井手 秀彦
監査役(社外監査役)	田中 晴男		

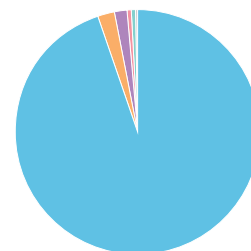
事業所

●本店	●名古屋支店	●四日市事業所 千歳工場
●本社・研究所	●九州支店	●四日市事業所 霞工場
●東京本社		●大湊事業所
●大阪支社		●滋賀事業所

株主分布状況

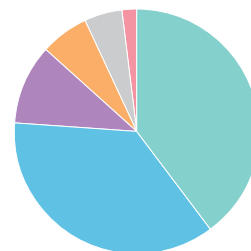
株主数比率

●個人・その他	94.94%
●その他法人	2.19%
●外国法人等	1.50%
●金融商品取引業者	0.72%
●金融機関	0.63%
●自己名義株式	0.02%



株式数比率

●金融機関	39.87%
●個人・その他	36.49%
●外国法人等	10.47%
●その他法人	6.28%
●自己名義株式	5.14%
●金融商品取引業者	1.75%



大株主一覧(上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,235,000	8.36
第一生命保険株式会社	3,067,000	6.05
株式会社みずほ銀行	2,135,000	4.21
株式会社京都銀行	2,085,000	4.11
朝日生命保険相互会社	1,697,000	3.35
DKS取引先持株会	1,391,000	2.74
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	1,363,000	2.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,300,000	2.57
第一工業製薬従業員持株会	1,290,317	2.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	854,000	1.69

(注) 1.当社は自己株式を2,747,089株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

3.DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIOは、「CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO」から名称変更しております。

TOPIC

「エコプロ2016」のテーマゾーン「ナノセルロース展」に出展

2016年12月8日より3日間、東京ビッグサイトで開催された環境総合展示会「エコプロ2016」に出展しました。出展規模は前年を上回る705社・団体、来場者数は167,093名を数えました。植物由来の次世代素材、セルロースナノファイバー（CNF）の開発企業として、テーマゾーン「ナノセルロース展」に当社の「レオクリスタ」を展示しました。既にボールペンインクの増粘剤として世界初の実用化に成功しており、新たな用途開発品として溶剤分散を特長とした「疎水変性CNF」を紹介しました。今後もCNFのユニークな機能や性能を見出し、販売の拡大をめざします。



株主メモ

創業年月	明治42年4月(1909年4月)
事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
配当	期末配当金受領株主確定日 3月31日 中間配当金受領株主確定日 9月30日
単元株式数	1,000株
発行済株式総数	53,421,609株(2017年3月31日現在)
お取扱窓口	証券会社等に口座をお持ちの場合、住所変更や買取請求等株主さまの各種手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこと

お問合せ先	となりますので、ご利用の証券会社等へご連絡をお願いいたします。 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、みずほ証券(株)及びみずほ信託銀行(株)にてお取次いたします。 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行(株) 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
未払配当金の お支払	みずほ信託銀行(株)及び(株)みずほ銀行の各本店及び全国各支店
上場取引所	東京証券取引所(証券コード4461)

第一工業製薬株式会社

〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5
TEL 075-323-5911 FAX 075-326-7356
<http://www.dks-web.co.jp>

環境・社会活動はホームページへ



<http://www.dks-web.co.jp/corporate/ecology.html>

